

「生徒が主役」の 給食委員会活動

兵庫県西宮市立大社中学校
(前兵庫県西宮市立塩瀬中学校)

ひらはら まい こ
平原麻衣子

【実践の概要】

前任校に着任した当初、給食委員会の活動内容が明確でなく、生徒たちには戸惑いが見られた。そこで給食委員会活動を活発にし、自分たちのなかに秘めた能力があることを実感させ、普遍的な学校のスタンダードを作り上げて行くなかで生徒の成長や可能性を見いだすことができた。本論文は中学校での給食委員会活動を生徒と栄養教諭と一緒に考え、行動した9年間の実践報告である。

【論文内容の紹介】

1 具体的な取り組みについて

(1) 取り組み1・2年目

まず、給食委員会活動（以後委員会活動）とは何をするものか整理した。特に給食返却時の指導（以後立ち当番）がうまくいっていないことが明らかになったので、役割分担を細かく決め、実施した。

(2) 取り組み3年目

委員会活動が明確になり、給食委員長（以後委員長）Aから給食当番や委員会活動で気になっていることの相談があり、それをもとに取り組みを行った。

- ① 給食当番の服装ルールの確認－新3年生
- ② 立ち当番の仕事内容紹介のDVD作成
- ③ 委員長によるイラストを用いた給食献立

紹介や給食当番活動等の紹介

(3) 取り組み4・5年目

委員長Bが後任への引き継ぎカリキュラムを組み、これまでに築き上げたものを継承できるようになった。また、隣市から視察があった。

(4) 取り組み6年目

委員会活動への熱い思いをもった生徒が多く在籍し、委員長Cを中心に様々な取り組みを行った。委員会活動が最も活発であり、変革の年でもあった。

- ① 3年生給食委員による自主的服装点検
- ② 表彰の改革－各学年に盾を贈呈
- ③ 後輩の手本となる立ち当番活動

(5) 取り組み7年目

この時期には給食当番・委員会活動全般が生徒主体の自発的・自治的な活動になった。

- ① 委員長Dの選挙公約「給食当番の運搬ルート変更」の実現
- ② 3年生給食最終日カウントダウン表示
- ③ 給食室入口に標語をプレートにして掲示

(6) 取り組み8年目

委員長Eをモデルに「給食配膳台の使用前清掃について」のポスター作成、また給食当番が必ず手洗いをして給食室へ行くように服装点検場所から給食室への移動ルートを見直す等、清潔衛生面の改善を図った。

(7) 取り組み9年目

委員長Fの選挙公約「当たり前のことを当たり前にできるようにしよう」を毎月確認し、実行した。

- ① 春休み中のエプロン等の整理・点検
- ② 3か月間に渡る残量ゼロへの取り組み
- ③ 係別集会による交流と課題の確認

貴重な活動であることが裏付けられた。教師主導ではなく、自分たちで作り上げるという思いから懸命に取り組む姿を見ることができた。「生徒が主役」の給食委員会活動を通して、生徒に寄り添う栄養教諭でありたいという気持ちを一層強くした9年間であった。

2 まとめ

給食委員長・給食委員はどういう思いで活動をしているのか知るため、卒業生・現役生対象にアンケートを実施した。その結果から、委員会活動とは教科学習や部活動では得られない体験活動であり、キャリア教育に位置付けられる